

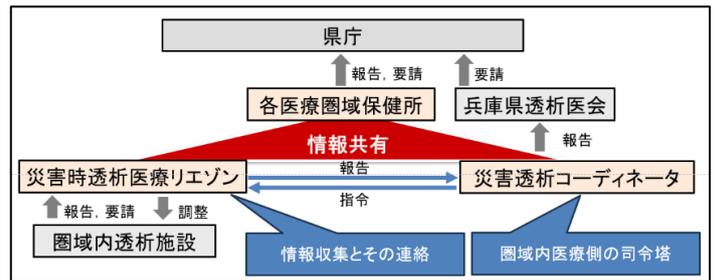
兵庫県透析関連団体における組織的支援活動 ～災害時透析医療リエゾンの活動を中心に～

兵庫県透析災害対策合同委員会 森上辰哉、重松武史

兵庫県透析関連団体では、災害時の透析患者支援を効果的に行うために、2018年より組織的支援活動として災害時透析医療リエゾン（以下リエゾン）を各医療圏域（各保健所）に配置した。「リエゾン」とは「連絡員」と直訳され、被災地透析施設の情報を集約し、行政（保健所担当者）等情報を伝える役割を担う。本活動は行政側（県健康局医務課）でも承認され、県内10医療圏の災害対策マニュアルに追加掲載されるに至った。

有事の際のリエゾンの任務は、情報収集と連絡が主である。透析医会（兵庫県）から情報収集開始依頼後、日本透析医会災害時情報ネットワークに寄せられた施設単位の情報と地域内施設の被災情報収集を行う。有事の際の情報収集をより効果的に行う為、平時より地域内保健所担当者や透析施設担当者とコミュニケーション（顔の見える関係作り）を取ることや施設情報調査、さらには組織的支援活動に関わる啓発が重要任務となっている。

現在リエゾンは、10医療圏域17保健所毎に35名（臨床工学技士24名，看護師11名）を配置しており、さらにこれらリエゾンの司令塔として災害透析コーディネーター（医師）を配置する方向で進めている。災害透析コーディネーターは、リエゾンから得られた情報を集約して行政側と調整し、支援透析の手配、水・電気の手配等を行う。



また災害時透析支援施設として、地域の特性を踏まえた柔軟な災害対策をまずは地域単位で考慮するように、県内10の医療地域毎に一次、二次、及び三次支援施設（実施に当たっての優先順）にグループ分けを行っている。

地域に根付いた災害支援活動が実施できるよう、行政と医療側で情報共有し有効な活動につなげていきたい。

